

令和6年度 調理済給食検査結果について

【給食提供期間】令和6年4月9日～令和6年4月26日

提供期間	検査日	検査対象校	合計重量(kg)	検査結果(Bq/Kg)			放射性セシウムの内部被ばく実効線量合計(週間)(mSv)(注1)	放射性セシウムの内部被ばく実効線量合計(年間)(mSv)(注2)
				放射性ヨウ素131	放射性セシウム			
					134	137		
4/22 ～ 4/26	5/1	富屋小学校	3.29	不検出 <0.6	不検出 <0.6	不検出 <0.5	0～0.000044	0～0.001716
		五代小学校	3.1	不検出 <0.6	不検出 <0.5	不検出 <0.7	0～0.000044	0～0.001716
		上河内学校給食センター	3.142	不検出 <0.6	不検出 <0.4	不検出 <0.6	0～0.000044	0～0.001716
4/15 ～ 4/19	4/23	国本中央小学校	2.625	不検出 <0.6	不検出 <0.7	不検出 <0.7	0～0.000044	0～0.001716
		城山中央小学校	3.035	不検出 <0.7	不検出 <0.6	不検出 <0.7	0～0.000047	0～0.001833
		田原中学校	3.52	不検出 <0.6	不検出 <0.6	不検出 <0.7	0～0.000072	0～0.002808
4/9 ～ 4/12	4/16	清原中央小学校	2.34	不検出 <0.5	不検出 <0.6	不検出 <0.6	0～0.000034	0～0.0016575
		横川東小学校	2.24	不検出 <0.6	不検出 <0.6	不検出 <0.6	0～0.000032	0～0.00156

- ・Bq(ベクレル)は、放射線の強さを表し、Sv(シーベルト)は、人間が放射線を受けた場合の影響度を示しています。(消費者庁:食品と放射能Q&A)
- ・平成24年4月より、食品から許容することのできる放射性セシウムの線量は、「年間1ミリシーベルト」を基本としています。(厚生労働省)
- ・参考として、Bq(ベクレル)での測定値をSv(シーベルト)に換算しています。

(注1)計算上の推計値です。

- ・検査結果から計算される放射性セシウム134・137による内部被ばくの実効線量は、「不検出」の場合、セシウム134と137がそれぞれ0から測定下限値まで等量含まれていると仮定したうえで、実効線量換算係数(※)を用いて計算しています。
- ※ 「緊急時における食品の放射能測定マニュアル(平成14年3月)厚生労働省」参照

【算出方法】

セシウム134が $\text{A}$ (Bq/kg)、セシウム137が $\text{B}$ (Bq/kg)、合計重量 $\text{C}$ (kg)の場合

※ 換算係数はセシウム134( $1.4 \times 10^{-5}$ )、セシウム137( $1.0 \times 10^{-5}$ )を使用

$$(\text{A} \text{Bq} \times 0.000014 \times \text{C} \text{kg}) + (\text{B} \text{Bq} \times 0.00001 \times \text{C} \text{kg})$$

$$\approx \text{放射性セシウムの内部被ばく実効線量(推計値)}$$

【例:A小学校】

セシウム134が0.48(Bq/kg)、セシウム137が0.56(Bq/kg)、合計重量4.908(kg)として計算した場合

$$(0.48 \text{Bq} \times 0.000014 \times 4.908 \text{kg}) + (0.56 \text{Bq} \times 0.00001 \times 4.908 \text{kg}) \approx 0.000060 \text{mSv}$$

(注2)内部被ばく実効線量(週間)から、1日分を割り出し、年間の平均給食実施回数(約195回)を乗じて、1年間の学校給食からの内部被ばく実効線量合計を推計しています。

(注3)調理済給食検査について、放射性セシウムの国の基準値は設けられていませんが、一般食品の基準値(100Bq/Kg)を参考に比較した場合、検出された値は極めて低い値であり、健康影響が懸念されるものではありません。